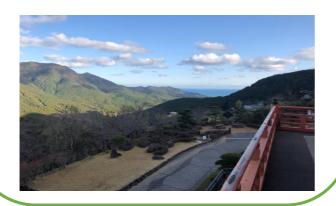
研修医通信 Vol.107



三重県立総合医療センター 研修医2年目 福井 康大

普段は三重県立総合医療センターで勤めております が、今年度から貴院での研修の機会をいただき、1か月研 修をさせて頂きました。紀南病院での1ヶ月は想像して いた以上に刺激的で、多くの貴重な経験をさせて頂きま した。救急外来や内科初診外来での診察から入院加療お よび退院に至るまでの診療を経験させていただく中で、 指導医の増田先生と相談しながら検査や治療を行い内科 における入院患者の管理の難しさを学びました。複雑な 病態の中で、社会的な背景を考慮し、各個人にとって何が 最善かを学ぶ良い機会でした。また、ひとりの患者様の退 院やその後の生活は、医師や看護師だけでなく、MSW や ケアマネージャー、退院先となる施設や病院スタッフと いった多くの職種が関わり連携していることで成り立っ ていくことも再度痛感致しました。さらに、医療資源の限 られた地域でそれぞれの病院が役割を果たし、急性期病 院と連携を図る医療を通じて、人を診るだけではなく地 域を診る医療の大切さを身に染みて感じ、今までとは違 う医療の側面を知ることができました。今回学び感じた ことや経験を活かして、貢献していけるよう精進してい きます。多大なご指導をいただいた増田先生をはじめと する先生方、お世話になったスタッフの皆様、1ヶ月間本 当にありがとうございました。



伊勢赤十字病院 研修医2年目 杉本 賢政

紀南病院で研修させていただきまず初めに驚いたこ とは、入院している患者さんの年齢が想像以上に高い ことでした。ある日の私の担当患者の平均年齢は89才 11ヶ月と日本の平均寿命を超えていました。当初は東 紀州の高齢化恐るべし!程度にしか思っていませんで した。しかし研修が進むにつれ、担当患者さんの病状が 落ち着くと別の病棟に移動することがあったり、病棟 によってスタッフの人数に濃淡があることに気づき、 病棟の種類の違いが一つの要因になっていることを知 りました。紀南病院は一般病棟だけでなく、地域包括ケ ア病棟や回復期リハビリテーション病棟を併せ持って います。急性期治療を終えたが引き続き医療介入が必 要な方はそのまま継続して一定期間入院させておける 仕組みが整っていました。これまで意識することのな かった各病棟の役割や違いを知り、急性期治療の先の 医療について理解を深めることができたと思います。 また院内での研修以外にも、紀南病院を退院し在宅医 療を行うことになった患者さんの自宅訪問、神川へき 地診療所への同行、病院間の転院搬送時の救急車同乗 などさせていただきました。患者さん、家族、救急隊の 方などとの交流を通じこの地域の医療提供体制や生活 様式の一端を知ることができました。最後になります が、ご指導いただきました佐羽先生はじめ、お世話にな った皆様、本当にありがとうございました。



三重大学医学部附属病院 研修医 2 年目 長嶋 一訓

紀南病院での7ヶ月の研修があっという間に終わってしまいました。内 科研修では呼吸器疾患や糖尿病を中心に診させて頂き、入院から退院に至 るまでの治療方針などを任せて頂きました。また、非常に多くの転院搬送 を経験させて頂き、自分1人しかいない救急車内で何ができるのかを考え る良い経験になりました。診療所・離島研修では地元民ながら初めて行く 場所が多く、船で輸液を抱えて患者搬送したあの経験はとても印象に残っ てます。また、紀南病院には知り合いも多く、色々な人から声をかけて頂 き、とても働きやすかったです。勝手が分からず戸惑い、焦った経験もあ りますが、非常に多くの疾患を経験させて頂きました。不慣れな部分も 多々あり、皆様には多大なるご迷惑をおかけしたかもしれませんが、有り 難うございました。また、今後紀南病院で働く機会があると思いますので その際は宜しくお願いします。

